

オズウイルスによる心筋炎と診断された患者の報告について

今般、2022年初夏に心筋炎で亡くなられた患者について、茨城県衛生研究所及び国立感染症研究所の検査の結果、オズウイルス（Oz virus）による心筋炎と診断されました（別添）。

オズウイルスは、2018年に国内のマダニから初めて分離・同定され、野生動物（ニホンザル、イノシシ、シカ）の血清抗体調査によって国内での広い分布が予測されていましたが、世界的にヒトでの発症や死亡事例が確認されていなかったウイルスです。オズウイルスのヒトへの感染経路について、現時点で確立された知見は得られていませんが、これまで、ヒトを刺咬するマダニから同ウイルスが検出されており、感染マダニの刺咬により感染する可能性が考えられています。

マダニは、日本紅斑熱や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）等の感染症を媒介することが知られており、マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まることから、特に注意が必要なため、県民への注意喚起をお願いいたします。

【患者の概要】

- 1 年代等：70歳代（女性）、茨城県在住
- 2 症状：発熱、倦怠感、食欲低下、嘔吐、関節痛
- 3 経過等：
 - 2022年初夏 症状が出現し、医療機関を受診。
肺炎の疑いで抗生剤を処方されて自宅療養していたが、症状が悪化したため、再度医療機関を受診し、他院に転院。
 - 入院時 右鼠径部にマダニの咬着を確認。
ダニ媒介感染症の疑いで入院加療。
 - 入院後 検査では、リケッチア感染症及びSFTSは否定。
心筋炎が疑われ、治療継続。
 - 入院20日目 意識障害出現。多発脳梗塞があり、抗凝固療法を開始。
 - 入院26日目 死亡。
 - 死亡後 医療機関において病理解剖実施。
茨城県衛生研究所において、入院時の検体を検査したところ、オズウイルス遺伝子を検出。
国立感染症研究所の検査をうけ、オズウイルス感染症と診断。

患者及び患者家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から本人等が特定されることのないよう、格段の御配慮をお願いいたします。

○ オズウイルス感染症とは

オズウイルスは、2013年に愛媛県で採取されたタカサゴキララマダニから、2018年に初めて分離・同定されました。これまで、世界的にヒトでの発症や死亡事例は確認されていませんでした。

オズウイルス感染による症例報告は今回の1例のみであり、オズウイルス感染による臨床症状に関する確立された知見は得られていません。血清抗体調査により過去の感染が示唆された事例の報告があり、感染が必ずしも致死的な経過につながるわけではないと考えられていますが、臨床症状の特徴の解明のためには、さらなる症例の情報の集積が必要です。現時点では、有効な治療薬に関する知見はなく、治療は、対症療法のみとなります。

感染経路に関しても、確立された知見は得られていませんが、マダニに咬まれることによる感染の可能性が考えられることから、屋外で肌の露出を少なくしたり忌避剤を使用したりするなど、マダニに咬まれないようにすることが重要です。

なお、オズウイルスを媒介すると考えられるマダニは、主に関東以西に分布しており、オズウイルスの感染歴があると考えられる野生動物が千葉県、岐阜県、三重県、和歌山県、山口県、大分県で確認されております。

－ 県からのお願い －

○ 県民の皆様へ

1 マダニに咬まれないように注意しましょう

マダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

草むらや藪などに入る場合には、長袖・長ズボン（シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する）、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大切です。服は、明るい色のもの（マダニを目視で確認しやすい）がおすすめです。

ディート（DEET）やイカリジン（ピカリジン）等を含む忌避剤の併用も効果が期待されます。

2 マダニに咬まれた場合

マダニに咬まれていることに気が付いた場合、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらってください。また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けてください。



タカサゴキララマダニ（吸血前：約7mm）



タカサゴキララマダニ（吸血後：20mm以上）

【写真：国立感染症研究所提供】

（別添）国立感染症研究所発行資料

1. 病原微生物検出情報（IASR）速報 初めて診断されたオズウイルス感染症患者
2. オズウイルス感染症とは
3. オズウイルス感染症に関するQ&A